

雜 纂

京都外科集談會昭和10年3月例會

3月20日午後6時半ヨリ京大樂友會館ニ於テ開催、雜誌抄讀ニ次イデ下記ノ臨床例報告及ヒ松本教授ノ特別講演アリ、盛會デアツタ。

臨 床 例

腹部及腰部ニ於ケル廣汎ナル皮膚壞死ノ1治驗例	大阪北野病院	大 岡 義 秋
廣汎ナル小腸捻轉症ノ臨床的診斷ニ就テ		宇 野 亮
追 加		生 野 正
結核性腱鞘炎ノ1例		宇 野 亮
淋疾性直腸狹窄症		房 岡 隆 三
腎臟疾患ニ因ル Dérangement interne		佐々木 義 孝
同名半盲症ヲ伴ヘル腦疾患ノ3例		荒 木 講 師
追 加	名古屋市民病院	巽 博 士
骨折ノ非觀血的療法ニ就テ		吉 益 博 士

特 別 講 演

Dermatosis praecancerosis	松 本 教 授
---------------------------	---------

京都外科集談會昭和10年4月例會

4月20日午後7時ヨリ京大樂友會館ニ於テ開催、下記ノ臨床例報告アリ、盛會デアツタ。

臨 床 例

病的「クロナキシー」ノ臨床的觀察 其一 顔面筋		吉 武 信
幼兒ニ現レタル巨大ナル腎臟腫瘍		弘 重 允
「コクテゲン」靜脈内注射療法ニヨリテ全治セル Septicopyämie ニ就テ	大阪弘濟病院	上 村 溫 夫
手術前處置トシテノ非「アルカロイド」性鎮痛劑ノ應用	大阪弘濟病院	{ 上 村 一 夫 上 村 溫 夫
多發性痛ノ1例		石 野 琢 二 郎
留彈ニ關スル知見補遺	京都衛戍病院	根 岸 軍 醫 正

Arteriomesenterialer Duodenalverschluss

西 村 鍵 治

腦下垂體腫瘍摘出例

吉 田 久 士

急性腹膜炎 = 對スル Enterostomie,
Enterosigmoideostomie = 就テ

大阪弘濟病院 塚 原 博 士

第9回香川縣外科集談會

昭和9年11月11日午後3時ヨリ高松市，三越ニテ開催ス。出席者25名。講演概要及氏名次ノ如シ。

盲腸軸轉不通症ニ就テ

藤 澤 秀 圃

患者坂東宇太郎 58歳 農夫 5,6日以來便秘，輕度ノ下腹痛ヲ訴ヘルガ昭和9年7月4日夕食後ヨリ激甚ナル腹痛，嘔吐，排便放屁杜絶，腹部膨滿，雷鳴等急性イレウスノ症狀ヲ呈シ7月6日來院Lエーテル⁷全麻ニテ手術セリ。盲腸ハ嬰兒頭大ニ膨滿シ總腸間膜ヲ有シ，其ノ長徑ヲ軸トシテ廻腸ノ最下端ト共ニ時計ノ針ト同方向ニ約180度右旋セリ。既ニ壞死ニ陥レルヲ以テ盲腸及廻腸下端切除シ腸吻合ヲ施シ一次的ニ腹腔ヲ閉ジ。術後經過順調ニシテ25日ニシテ治癒退院セリ。

脊椎骨炎患者主訴ニ就テノ1臨床的觀察

東 原 昌 英

脊椎骨炎患者38例ヲ診療シ，其變化極リナキ主訴ヲ大約8型ニ分類スルコトヲ得タレバ茲ニ報告シテ諸先生ノ御批判ヲ仰ギタル次第ナリ。

第1型 上體伸展ニ際シ患部疼痛ヲ訴フ	8.3%	第5型 運動時患部疼痛(或ハ倦怠感)	22.2%
第2型 上體前後屈ニ際シ患部患部疼痛ヲ訴フ	8.3%	第6型 安靜時，患部重壓感	8.3%
第3型 上體前屈時患部疼痛	16.6%	第7型 患部自發痛(或ハ緊張感)	19.4%
第4型 上體運動時患部疼痛	5.5%	第8型 自訴ナシ(醫師ヨリ脊柱ヲ叩打セラレテ始メテ氣附キ得ルモノ)	11.1%

火傷ノ療法ニ就テ

松 村 幹 克

火傷ニハ特種療法ナク，從ツテ種々ノ療法ガ提唱セラレ且施行セラル。此等ノ一般ニツキテ全身療法ト局所療法トニ分チテ述ベタリ。其ノ大要ヲ一括シテ見ルト次ノ如シ。

I 全身療法

1. 疼痛ヲ和ゲル爲ニ鎮痛麻醉劑ノ注射
2. 水分ノ補給ヲ充分ニナラシムルコト
3. 強心劑注射

II 局所療法

1. 收斂劑使用
2. 軟膏劑使用
3. 收斂劑或ハ殺菌劑溶液滲法

第36回日本外科學會總會

伊藤弘教授ヲ會長トスル第36回日本外科學會總會ハ去ル4月1, 2, 3日ノ3日間東大工學部新講堂ニ於テ開會。例年ノ事ナガラ流石ノ大講堂モ立錫ノ餘地無キ程多數ノ出席者ニテ滿サレ加フ

ルニ追加討論活潑ニ行ハレ三日間トモ日程ヲ終ルハ午後6時ヲ過ギルノ盛況デアツタ。

會長伊藤教授ハ寸刻モ座長席ヲ離レル事無ク、3日間ニ互リ熱心ニ演説ノ進行及び會場ノ統制ヲ計ラレタ。

次回開催地ハ名古屋市、會長ハ齋藤眞教授、宿題ハ「外科領域ニ於ケルレ線診斷法」デ、報告者ハ下記ノ6題ニ就キ6氏ノ分擔ト決定サレタ。

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 腦脊髓表面造影術 | 熊大 東陽一教授 |
| 1. 血管及神經撮影法 | 名大 齋藤眞教授 |
| 1. 氣管撮影法 | 東京醫專 佐藤清一郎教授 |
| 1. 胃腸造影法 | 京大 藤浪修一講師 |
| 1. 膽道撮影法 | 九大 赤岩八郎教授
小森拓副手 |
| 1. 腎盂撮影法 | 東北大 杉村七太郎教授 |

第36回日本外科學會總會會長伊藤弘教授ノ慰勞ヲ兼ネタル

京大外科懇親會開催

第36回日本外科學會總會會長トシテ昨年以來本年4月1, 2, 3日ノ會期ヲ了ヘルマデ、準備ニ司會ニ一方ナラヌ努力ヲ盡サレシ伊藤弘教授ニ對シ、京大外科教室員並ニ關係者一同ソノ勞ヲ稿フノ意ヲ兼ネテノ恆例ニヨル京大外科懇親會ハ鳥潟・磯部兩教授ノ發起ニテ5月5日保津川下リニ引キ續キ午後6時ヨリ嵐山溫泉ニ於テ開催。遠方ヨリノ出席者ヲモ加ヘテ總人數約95名、時宛モ初夏、山峽ニ新緑映エ溪流ニ河鹿鳴ク大堰川畔、驟雨一過ニ翠巒愈々濃ク、出席者一同ノ興趣大イニ舉リ慰勞懇親ノ宴トシテ誠ニ好適、夜既ニ10時散會後千鳥ヶ淵ヲ過ギル屋形船ニ三々伍々名殘ヲ惜ム聲ガ溫柔ナ水面ヲ搖曳シ綿々トシテ盡キザルノ情景デアツタ。

月刊雜誌「日本循環器病學」創刊

泰西ニ於テ古キハ既ニ20數年ノ歴史ヲ有スルニ拘ラズ、本邦ニ於テハ必要ヲ叫バレナガラモ最近マデ創立ノ運ビニ到ラナカツタ本邦內科學分科中ノ循環器病學會ガ識者ノ要望ノ下ニ本年4月京大醫學部眞下內科教室ニ創立サレ、同時ニ同名ノ月刊機關誌ガ發刊サレルニ到ツタ。同誌ハ卷頭ノ言ニアル如ク業績ノ發表トイフ一般機關誌ニ共通スル使命ノミニ止ラズ、第一ニ我國ニ於テ初メテ生レタル本分科ノ今後ノ發展及學會ヘノ貢獻トイフ若人ノ希望ト、第二ニ從來循環器疾患ニ對シ比較的無關心敬遠ノ習性ヲ有セシ實地臨床家ヲ對象トシテ臨床綜説及び新

知識ノ紹介等ニ忠實ナル臨床雜誌タラントスル努力トコノニツノ特長アル使命ヲ明カニ自覺シテ編輯サレテキル。今創刊號ヲ繕クニ體裁ハ Klinische Wochenschriftニ倣ヒ總「アート」紙二段組ノ「スマート」ニシテ要領ヲ得タル體裁、内容ハ論述欄「脈波描寫法」ニ5頁、原著8題ニ26頁、「動脈瘤」「循環器神經症」ノ2項ヨリナル講座欄及文獻抄録ヨリナル學會展望欄ニ15頁、雜纂欄「醫物理學」(連載)ニ5頁ヲ夫ニ費シテキル。原著欄ニ於テハ1論文4頁ヲ理想トスルノ簡潔主義ヲ實現シテ居ルニ反シ、講座欄2項共各5頁ヲ費シ又學界展望欄頭「機能代償セル心筋疾患ノ藥物療法」ナル綜説抄録ヲ細字2頁半ニ互ツテ詳述セルアタリ、新シキ學術發表機關タルノ使命ヲ果スト共ニ他方アクマデ「スピードイー」ナ現在ノ實地臨床家ヲ對象トスル事ヲ忘レテキナイ事實ハ本誌ノ將來ヲ約束サセル大ナル特色デアラウ。月刊ニシテ會費1年5圓、申込所ハ

京都帝國大學醫學部眞下内科教室内日本循環器病學會。

恙蟲病原體ノ「コクチゲン」ニ就テ

林直助博士ノ主宰スル恙蟲病研究所ニテハ先年來恙蟲病原體「コクチゲン」ヲ利用シテ或ハ治療上ニ或ハ豫防上ニ人體ニ使用シ、世ニ示スニ足ル一定ノ效果ヲ收メ居ルコトハ學界ノ爲ニ慶賀スベキコトデアルガ、此際「コクチゲン」ノ製法ニ關シ昭和10年5月4日發行ノ關西醫事第232號ニ林直助・加藤敏郎兩氏ノ名ニテ次ノ如キ發表ガアル。

c. 「コクチゲン」注射

余等ノ製造セル恙蟲病「コクチゲン」ナルモノハ京大ノ鳥瀉教授ノ「コクチゲン」製造ノ方式ニ據リテ考案シタモノナリ。元來恙蟲病原ハ其ノ純粹培養ヲ爲シ得ルコト未ダ不可能ナルヲ以テ同教授ノ方法ヲ其ノ儘襲用スル能ハズ。然ルニ恙蟲病毒ハ初メ淋巴腺並ビニ脾臟ヲ胃シ同時ニ其ノ腫脹ヲ來シ次イデ血液内ニモ侵入シテ全身病ヲ起スハ臨床上明カナルノミナラズ亦顯微鏡下ニ於テモ常ニ其處ニ病原ノ分布セルヲ證明シ得ラル。余等ハ此ノ點ヨリシテ恙蟲病ニ胃サレタル臟器即チ淋巴腺並ビニ脾臟ヲ摘出シテソレヲ鳥瀉教授ノ細菌ノ純粹培養ニ代用ス。從ツテ鳥瀉教授方式トハ稱スルモ而モ其ノ臟器ヲ使用スルガ爲其ノ製造法ニ於テモ全ク獨創的ナリ(以下省略)。

「コクチゲン」ヲ製出スルニハ必ズシモ細菌純培養ノ出發材料ト爲スノ必要無ク、ソノ細菌ガ感染シテキル組織或ハ其ノ細菌ガ含有サレテキル組織液(膿汁等)ノ煮沸浸出液ヲ使用シテモ可ナルコトハ既ニ特許明細書ニモ記載サレテ居リ、マタ天然痘病原體ノ「コクチゲン」(中川三朗・高島恆男論文)狂犬病原體「コクチゲン」(中村正雄論文)等ニテ十分明白ナル所デアル。

恙蟲病原體ノ「コクチゲン」ヲ製出スルニシテモ最初林直助教授ガ研究生ヲ京大外科研究室ニ派遣シテ、製出方法ノ教示ヲ請ヒタルモノデアル。今日ニ及ンデ前記ノ如ク鳥瀉教授ノ研究結果ヤ其ノ教示ニ對シテ禮ヲ失シタル發表ヲ敢テスルノハ聊カ異様ノ感ヲ惹起サセルモノデアル。

鳥瀉教授ノ學術的發表ニ對スル上記ノ如キ冒瀆ヤ無禮ハ意識シテ之ヲ敢テシタモノトハ考ヘ

ラレス。畢竟認識ノ不足カラ來テキルコトデアロウ。既ニ發表サレテキル事實ヲ不問ニシテ自家一身ノ效利ニノミ急グコトノ結果デアロウ。

多數ノ者ノ中ニハ「コクチゲン」ハ攝氏百度デ煮沸スルノデアアルガ、自分ノハ攝氏80度ノ加熱デアルトカ、或ハ攝氏110度デアルトカ申シ立テ、ソレヲ獨創的デアルト吹聴シタイ者モアルラシイ。

併シ「コクチゲン」ノ製出ハ加熱ニノミハ限ラレテ居ラス。X線照射デモ、紫外線照射デモ、ソレニヨリテ「イムペチン」ガ破却サレテ抗原能働力ガ上昇シテキルナラバ、ソレハ何レモ一樣ニ「コクチゲン」デアアル。學界ニ於ケル可憐ナル『獨創者』ノ爲ニ序ナガラ一言ヲ附加シテ置ク。

會 員 動 靜

入 會

東京市淀橋區柏木東京醫專附屬淀橋病院外科

大阪府三島郡高槻町大阪高等醫學專門學校外科學教室

福岡縣折尾町外頃末日本炭礦中央病院外科

秋田縣平鹿郡横手町平鹿醫療組合病院

秋田縣平鹿郡横手町平鹿醫療組合病院

千葉市千葉醫科大學瀨尾外科教室

東京市澁谷區宮代町日本赤十字病院陰山外科

東京市豐島區目白町3丁目3597

東京市麴町區富士見町2ノ3ノ3東京警察病院

東京市淺草區田中町170

東京市本所區向島請地町182

東京市神田區駿河臺日本大學病院

東京市日本橋區茅場町2ノ14吉川病院内

茨城縣結城町2979

東京市荏原區中延町591

京都帝大醫學部外科學教室

同

同

同

淺川 充 太 郎

富 永 昌

鈴 木 俊 爾

戸 田 博

齋 藤 直 衛

中 山 恆 明

榎 本 武 雄

星 子 直 行

杉 本 六 郎

大 木 繁

浮 島 成 一

北 川 忠 義

岡 田 隆 春

箕 浦 信 良

佐 藤 理 三 郎

井 上 諒

今 井 次 雄

加 藤 辰 三 郎

神 前 俊 次